

令和4年度 学校評価(自己評価)報告書

学校教育目標	<p>【教育目標】 ふるさとを愛し 心身ともたくましく主体的に学ぶ生徒の育成</p> <p>△全体的に素直で、おどかしい面がある。もう少し元気さ、深淵さが欲しい。 ○学年とも、自主的・主体的な学習への取組姿勢があり、意欲的に取り組む。 ○コロナ禍においても、学校行事や生徒会活動等は「できること、できる方法」等の創意工夫をしながら意欲的に力を合わせて取り組むことができる。 ○保護者や地域の方は、学校教育への関心が高く、非常に協力的である。 ●心身の不調により、不登校及び不登校傾向が伺える生徒が若干名いる。 ●特別支援の視点から特に配慮を要する生徒が各学年若干名いる。</p>	<p>長崎県及び雲仙市教育方針、雲仙市がめざす学校教育を基盤とするとともに、改訂学習指導要領の完全実施を通して、新しい時代(Society5.0, Withコロナ・ニューノーマル等)を生き抜く力及び人間性を豊かで自主的精神と社会性を身に付けた心身ともたくましい生徒の育成を図る。 そのため、教育者としての使命感をもち、深い教育愛と優れた教育力を身につけながら特色ある学校づくりを創造する。 特に、本校では過去2年間の雲仙市指定研究で、人権学習の中で「SDGs」の学習に取り組んできた。さらに本年度は、特別支援教育の視点を全教育活動の根底に据え、支持的学校風土の醸成を図り、学力向上及び生徒指導の充実を努める。また、行事を生徒を成長させる場であることを、教職員及び生徒に常に意識付けを行う。</p>	<p>学校経営方針</p> <p>重点努力目標</p>
自校の現状		<p>①学習指導要領の具現化を図るために各教科の年間指導計画の様式を概ね統一し、指導と評価の一体化を可視化し、それを踏まえ、授業でどのような指導によりどの観点を評価するのか等、またその評価の方法等を明確にした授業の計画・実践に努める。</p> <p>②については、1学期の全国学力調査及び県学力調査の結果を踏まえた学力向上プランを、2学期の市学力調査結果を踏まえその改善を図る。また、タブレット端末の活用を含めたICT機器の活用による学力向上の検証を図る。</p> <p>③については、GIGASクール構想推進の研究を継続しながらも、人権教育やキャリア教育の研修等も計画的に進める。また、研究授業も積極的に回数を増やしていく。</p> <p>④については、新年度からの毎水曜日のノー部活動デー及び土日いずれかの休養日、大会の数について等を部活動振興会運営委員会を確認した。</p>	

※1

領域	重点項目(努力事項)	指標(見とる方法と判断の目安)	達成度
「柱Ⅰ」 学校教育活動の改善と充実	① 学習指導要領の具現化	自己評価(教職員)結果の肯定的評価(A・Bの割合) 90%以上	◎
	② 学力向上のための工夫ある取組 ※「タブレット端末の効果的な活用による分かりやすい授業の実践」	自己評価(教職員)結果の肯定的評価(A・Bの割合) 90%以上	◎
	③ 教職員研修の充実	自己評価(教職員)結果の肯定的評価(A・Bの割合) 90%以上	◎
	④ 部活動の適切な運営	自己評価(教職員)結果の肯定的評価(A・Bの割合) 90%以上	△
	※は校長自己目標との関連項目		
「柱Ⅱ」 安全・安心な学校づくりの推進	① 子どもの安全・安心の確保	自己評価(教職員)結果の肯定的評価(A・Bの割合) 90%以上	◎
	② 心の教育と教育相談体制の充実	自己評価(教職員)結果の肯定的評価(A・Bの割合) 90%以上	◎
	③ いじめ根絶に向けた取組の強化 ※「未然防止の徹底」	自己評価(教職員)結果の肯定的評価(A・Bの割合) 90%以上	◎
	④ 不登校対策の充実	自己評価(教職員)結果の肯定的評価(A・Bの割合) 90%以上	○
	※は校長自己目標との関連項目		

※2

成果又は課題	評価	改善策等
<p>①については、学習指導要領における個別最適な学び・協働的な学び等を踏まえ指導を全教職員で理解し、その具現化に努め、教職員93%の肯定的評価であった。ただ、指導と評価の一体化が不十分な面があり、指導計画にそれを踏まえた再検討が必要である。また、総合的な学習の時間についても見直し・改善が必要である。</p> <p>②については、タブレット端末をはじめとするICT機器の効果的な活用による研修・実践を重ね、教職員100%の肯定的評価であった。今後③との関連で、各教科でどういった工夫がなされているかの情報共有が大切になってくる。</p> <p>③については、校内研究・研修等は計画的に実施できた。GIGASクール構想推進に関わるタブレット端末の活用による授業実践や行事等の取組も増え、各教職員のスキルアップにつながった。教職員の肯定的評価は92%の結果であった。</p> <p>④については、全教職員79%の肯定的評価である。しかし、ノー部活動デー、休養日の設定については各部署の事情により流動的であったことが課題の1つである。また、部活により大会の教、土・日の練習でのパラツキがある。今後の部活動のクアパ化への情報収集から共有が必要である。</p>	A	<p>①については、学習指導要領の具現化を図るために各教科の年間指導計画の様式を概ね統一し、指導と評価の一体化を可視化し、それを踏まえ、授業でどのような指導によりどの観点を評価するのか等、またその評価の方法等を明確にした授業の計画・実践に努める。</p> <p>②については、1学期の全国学力調査及び県学力調査の結果を踏まえた学力向上プランを、2学期の市学力調査結果を踏まえその改善を図る。また、タブレット端末の活用を含めたICT機器の活用による学力向上の検証を図る。</p> <p>③については、GIGASクール構想推進の研究を継続しながらも、人権教育やキャリア教育の研修等も計画的に進める。また、研究授業も積極的に回数を増やしていく。</p> <p>④については、新年度からの毎水曜日のノー部活動デー及び土日いずれかの休養日、大会の数について等を部活動振興会運営委員会を確認した。</p>
<p>①については、教職員の肯定的評価が93%の結果であった。大きな怪我にはつながらなかったが、登下校の目撃車事故が数件発生し、今後も継続的な指導が必要である。校舎内の安全点検については計画的に実施し、その都度改善を加えた。</p> <p>②③については、教職員の肯定的評価が100%であった。特に本年度はタブレット端末を活用した「瑞中ルーティーン」心の扉」を活用し生徒一人ひとりの日々の生活観察等に努め、指導・支援につなげることができた。</p> <p>④については、教職員の肯定的評価は86%の結果であった。若千名の該当生徒には寄り添った指導を重ねたが改善まではいかなかった。しかし、学校とのつながりは深めることができた。</p>	A	<p>タブレット端末の活用による「瑞中ルーティーン」心の扉」の更なる定着を図り、そのデータの内容の検証結果等を踏まえ、生徒指導につなげていく。また、改善が見られなかった④の不登校対策の充実を含めた生徒指導全般(交通指導・問題行動等)において、対処療法的な指導にならないように留意すること大切である。そのためにも、日常の小事を主体的に取り組み、問題発生の際は組織による迅速な、系統的な指導を心がける。「報告・連絡・相談」を含めた連絡ルートの、体制の確認・見直しを検討する。</p>

※3

成果又は課題	評価	改善策等
<p>①については、教職員の肯定的評価が79%の結果であった。学校全体として、個々人として業務改善につなげることが十分にできなかった。働き方改革について、その再確認・共通理解が必要である。</p> <p>②については、教職員の肯定的評価が86%の結果であった。目標の1つであったタブレット端末の効果的な活用に対する取組は学校全体で進めることができた。</p> <p>③については、教職員の肯定的評価は71%であり多くの課題が残る。時間外勤務時間の削減が求められる中、ビルドの新しい業務が業務も限られる中、ビルドの新しい業務が増えている。仕事量が減少されない中で業務改善や時間外勤務時間の削減は非常に厳しい。</p> <p>④については、教職員の肯定的評価は64%の結果であった。コロナ禍で家庭・地域との連携による取組等がほとんど実施できなかったが、学校により等を通して情報発信に努めた。</p>	C	<p>①と③については、教職員自身がより主体的に考え、行動できる職場環境の整備を進めなければならぬ。そのためにも、業務改革案を募るなどの取組も必要である。</p> <p>②については、今後も日頃から教職員とコミュニケーションを図ると共に、3学期途中から発行した校長室より利用して、様々な情報を発信したり、考えを伝えたりしながら課題解決に向けた協働意識の向上を図りたい。</p> <p>③については、負担の多い部活動については毎水曜日をノー部活動デーによる定時退庁日として設定する。また、外部指導者や部活動保護者に①③の現状を説明し、顧問の通常日の負担軽減につなげる。</p> <p>④については、これまで学校により家庭・地域に情報発信をして、教育活動等に理解を得ているので、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>

※1 重点努力目標に関わる評価項目に★をつける。

※2 各評価項目の達成度を、指標をもとに、◎(十分に達成できた)、△(概ね達成できた)、○(十分に達成できなかった)、▲(全く達成できなかった)で評価する。

※3 各領域全体を、評価項目の達成度をもとに、A(十分に達成できた)、B(概ね達成できた)、C(あまり達成できなかった)、D(全く達成できなかった)で評価する。

令和4年度 学校評価(学校関係者評価)報告書

学校教育目標	【教育目標】 ふるさとを愛し 心身ともにたくましく 主体的に学ぶ生徒の育成	学校経営方針	長崎県及び雲仙市教育方針、雲仙市がめざす学校教育を基盤とするとともに、改訂学習指導要領の完全実施を通して、新しい時代(Society5.0、Withコロナ・ニューノーマル等)を生き抜く力及び人間性豊かで自主的精神と社会性を身に付けた心身ともにたくましい生徒の育成を図る。 そのため、教育者としての使命感をもち、深い教育愛と優れた教育力を身につけながら特色ある学校づくりを創造する。 特に、本校では過去2年間の雲仙市指定研究で、人権学習の中で「SDGs」の学習に取り組んできた。さらに本年度は、特別支援教育の視点を全教育活動の根底に据え、支持的な学校風土の醸成を図り、学力向上及び生徒指導の充実を目指す。また、行事を生徒を成長させる場であることを、教職員及び生徒に常に意識付けを行う。
自校の現状	△全体的に素直で、おとなしい面がある。もう少し元気さ、深淵さが欲しい。 ○全学年とも、自主的・主体的な学習への取組姿勢があり、意欲的に取り組む。 ○コロナ禍においても、学校行事や生徒会活動等は「できること、できる方法」等の創意工夫をしながら意欲的に力を合わせて取り組むことができる。 ○保護者や地域の方は、学校教育への関心が高く、非常に協力的である。 ●心身の不調により、不登校及び不登校傾向が同える生徒が若干名いる。 ●特別支援の観点から特に配慮を要する生徒が各学年若干名いる。	重点努力目標	1 学力向上 ①学習指導の充実 ②特別支援教育の充実 ③教師の授業力向上 2 生徒指導 ①積極的な生徒指導 ②特別活動 ③健康・安全教育 3 心の教育 ①特別の教科「道徳」の授業力の向上 ②体験活動等の充実 ③平和・人権教育の充実

領域	重点度	評価項目(努力事項)	達成度	自己評価		学校関係者評価	
				成果又は課題	評価	意見・助言等	評価
〔柱Ⅰ〕 学校教育活動の改善と充実		① 学習指導要領の具現化 ◎	◎	①については、学習指導要領における個別最適な学び・協働的な学び等を踏まえ指導を全教職員で理解し、その具現化に努め、教職員93%の肯定的評価であった。ただ、指導と評価の一体化が不十分な面があり、指導計画にそれを踏まえた再検討が課題と言え。また、総合的な学習の時間についても直し・改善が必要である。 ②については、タブレット端末をはじめとするICT機器の効果的な利活用の研修・実践を重ね、教職員100%の肯定的評価であった。今後③との関連で、各教科でどういった工夫がなされているかの情報共有が大切になってくる。 ③については、校内研究・研修等は計画的に実施できた。GIGAスクール構想推進に関わるタブレット端末の利活用による授業実践や行事等の取組も増え、各教職員のスキルアップにつながった。教職員の肯定的評価は92%の結果であった。 ④については、全教職員79%の肯定的評価である。しかし、ノー部活動デー、休養日の設定については各部の事情により流動的であったことが課題の1つである。また、部活により大会の教、士・日の練習でのバリエーションがある。今後の部活動のクラブ化への情報収集から共有が必要である。	A	・タブレット端末を上手に活用した教育ができてきている状況が数値として表れており、とても良い点と思う。一方で、1学期の評価よりも2学期の評価が少し下がっているところも見受けられ、気になる。全体的には高い数値であり、このままの高評価が続くことを望む。 ・タブレット端末の活用を更に充実させ、小テスト等はペーパーレス化で実施する。部活動においては、今後生徒数の減少により、学校単位での活動は難しいので、市の校外クラブへ移行する。新しく発足させる。 ・行事など特活が充実している。部活動は素晴らしい。学力向上については、生徒同士が教え合う時間を授業の中で設定してはどうだろうか。学力向上はもつとできると思う。 ・先生方の努力は学力向上に繋がっていくものと期待する。保護者アンケート結果から、職員研修等で語彙についてほしい。要因がどこにあるのか、職員研修等で語彙についてほしい。 ・多くの項目において先生方が非常に努力されている姿が見られ、そのことに応える様に生徒、保護者の方の評価が高いことが理解できた。 【肯定的評価 85%】	B
〔柱Ⅱ〕 安全・安心な学校づくりの推進		① 子どもの安全・安心の確保 ◎ ② 心の教育と教育相談体制の充実 ◎ ③ いじめ根絶に向けた取組の強化 ※「未然防止の徹底」 ◎ ④ 不登校対策の充実 ○ ※は校長自己目標との関連項目	◎	①については、教職員の肯定的評価が93%の結果であった。大きな怪我にはつながらなかったが、登下校の自転車事故が数件発生し、今後も継続的な指導が必要である。校内の安全点検については計画的に実施し、その都度改善を加えた。 ②と③については、教職員の肯定的評価が100%であった。特に本年度はタブレット端末を活用した「瑞中ルーティーン」心の扉」を活用し生徒一人ひとりの日々の生活観察等に努め、指導・支援につなげることができた。 ④については、教職員の肯定的評価は86%の結果であった。若干名の該当生徒には寄り添った指導を重ねたが改善まではいかなかった。しかし、学校とのつながりは深めることができた。	A	・先生方と生徒・保護者の評価の差からみると意識の違いという点は先生方の問題意識が高いということだと考える。 ・朝の気持ちの良い挨拶や学校での来客への挨拶ができる生徒が多いと感じる。「挨拶の瑞中」と言われるような伝統ある学校づくりを期待する。今後の学校運営の1つのキーワードとなるのがコミュニケーションであると考えている。その原型的なものがコミュニケーションにあると思うので、会議の目的を明確にし、主体性を持たせたいと思う。 ・環境整備が良い。交通指導、コロナ対応、大変だと思うが継続を期待する。瑞中ルーティーンからの相談体制の充実とともに、対教師理解の工夫から、保護者の声に繋がらないか。欠席者へのリモートによる対応は良い。 ・校外での交通安全の意識の低さは毎年の課題である。特に、自転車のための運転技術やマナー、危険を認識させる。 ・大きな事件、事故もなく、コロナ禍であっても工夫しながらの取組があり、隔々まで配慮していただいていると感じる。 【肯定機評価 83%】	B
〔柱Ⅲ〕 働き方改革の推進		① 働き方改革への意識化と業務改善 △ ② 目標に向かう職員参画の学校づくり ○ ③ 教職員の勤務時間管理の徹底 ※「教職員の月の時間外勤務45時間超人数ゼロ」 △ ④ 学校・家庭・地域の連携強化 △ ※は校長自己目標との関連項目	△	①については、教職員の肯定的評価が79%の結果であった。学校全体として、個人として業務改善につなげることが十分にできなかった。働き方改革について、その再確認・共通理解が必要である。 ②については、教職員の肯定的評価が86%の結果であった。目標の1つであったタブレット端末の効果的な利活用に対する取組は学校全体で進めることができた。 ③については、教職員の肯定的評価は71%であり多くの課題が残る。時間外勤務時間の削減が求められるが、スクラップできる業務も限られる中で、ビルドの新しい業務が増えきている。仕事量が減少されない中での業務改善や時間外勤務時間の削減は非常に難しい。 ④については、教職員の肯定的評価は64%の結果であった。コロナ禍で家庭・地域との連携による取組等がほとんど実施できなかったが、学校だより等を通して情報発信に努めた。	C	・授業もあり、時間の制約もある中で様々な行事や、学校、学級だより、メール配信等で様子を知らせることができ、生徒の成長を実感している。働き方改革とは言え、中々難しい面も多々あると思うが、時間を有効利用してゆとりを持って生徒と接していただければと思う。 ・効率化と情報共有を共有する。 ・「学校だより」による情報提供がとてもありがたく、毎号興味をもって拝読させていただいた。学校関係者評価がやや書きつらく感じた。関連性が明確な生徒、保護者アンケートになるよう見直しを検討いただきたい。 ・連携というとても大事な項目では概ね達成できている。信頼される学校づくりを努力されていると思う。先の方は勤務時間の関係でなかなか大変だと思う。 【肯定的評価 90%】	A

※4

※4 学校関係者評価として、A(十分に達成できている)、B(概ね達成できている)、C(あまり達成できていない)、D(全く達成できていない)で評価する。